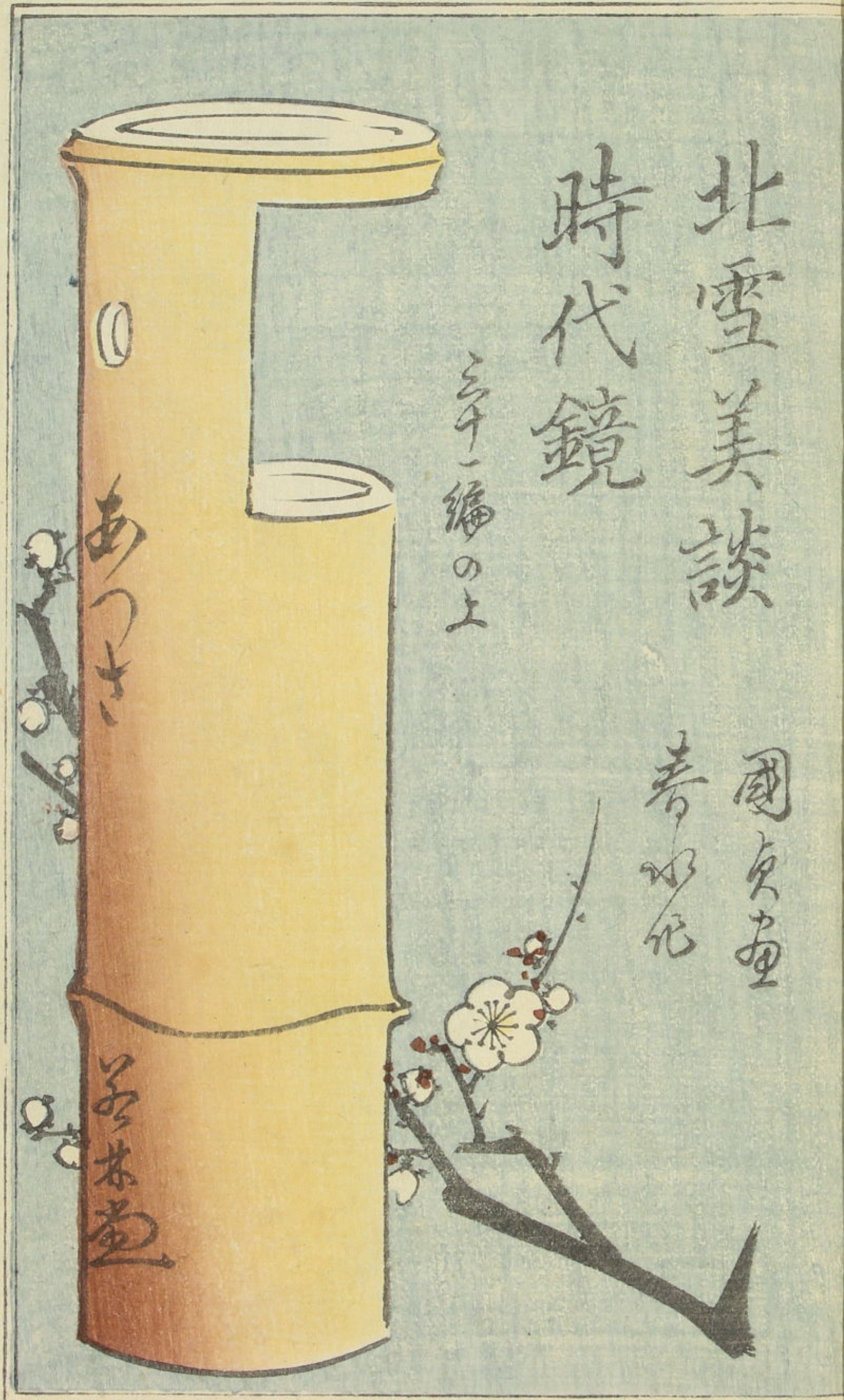


~ 13
3756
11





北雪美談
時代鏡

三十一編の上

國貞画
春の化



時代鏡

三十一編の下

國貞画
秋の化

若林
文庫



外題曲豆國画

甲子
新梓

地
勢
巧
人
鏡

三十一編下

春水作
國貞画

三十一編上

若林文庫



外題曲豆因由

三十二編下



美談時代鏡

三十二編上

美談時代
國貞畫

甲子の女

北野
美談時代鏡



外題曲豆團扇

若林豊高梓

三十三編下

甲子
新鏡



國
真
魚



三十三編上

春
水作



阿へ13
 3756
 卷 11

あつらひのりみ

云々云々

下注

おれさ

ふみささ

つゝ

田子



一

免傳既（免）發行（免）せしより料らむ看官（免）の愛顧（免）と得（免）く
 書肆（免）の米（免）甕（免）を賑（免）ふふあん更（免）小（免）刷（免）輯（免）を促（免）も更（免）
 性急（免）小（免）く虚日（免）あり素（免）より這（免）昏（免）の起（免）る（免）と（免）る（免）聊（免）
 援（免）あり小（免）似（免）れと著（免）も處（免）都（免）て咸（免）架（免）空（免）の辨（免）ふ（免）ありぬ
 早（免）あり小（免）似（免）れと著（免）も處（免）都（免）て咸（免）架（免）空（免）の辨（免）ふ（免）ありぬ
 又（免）奸（免）賊（免）總（免）しそ作者（免）の胸間（免）より振（免）り出（免）せる物（免）を燈（免）下（免）
 小睡（免）を忘（免）る追（免）小（免）綴（免）と責（免）を塞（免）ぐ小（免）の今（免）や二（免）十（免）一（免）編（免）
 の稿（免）成（免）されと名（免）を遂（免）ぐ身退（免）く（免）死（免）時（免）到（免）らね（免）笑（免）ひと
 後（免）小（免）残（免）し（免）自序（免）す

文久甲子歳且



為永春水記

詩代三十一



阿无羅

白雨の

女盗賊の首領
雲間の稲妻

甲八三二

ついでに
あつちへ
まへへ

さういふ
あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ

あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ

あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ

あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ

あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ

あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ

あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ
あつちへ
まへへ





あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん
あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん

寺三

あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん
あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん



あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん
あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん

寺三

あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん
あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん

あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん
あつをきい人もきふくきれつめどやをさあとのいんてん



寺入

十四

三十三

三十四



千代三十一

111

甲子年

十一



Handwritten text at the top of the left page, including the characters '山' (mountain) and '松' (pine).

Handwritten text at the bottom of the left page, including the characters '山' (mountain) and '松' (pine).



Handwritten text at the top of the right page, including the characters '山' (mountain) and '松' (pine).

Handwritten text at the bottom of the right page, including the characters '山' (mountain) and '松' (pine).



Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) surrounding the illustrations on the right page.



Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) surrounding the illustrations on the left page.



ついでに...
 鮮牛肉丸 大包金二味
 中包金二味
 小包百味
 鮮一ひの成補ひおん
 甘の成すす妙薬を
 きりやの人のついで
 用ひ



ついでに...
 鮮牛肉丸 大包金二味
 中包金二味
 小包百味
 鮮一ひの成補ひおん
 甘の成すす妙薬を
 きりやの人のついで
 用ひ

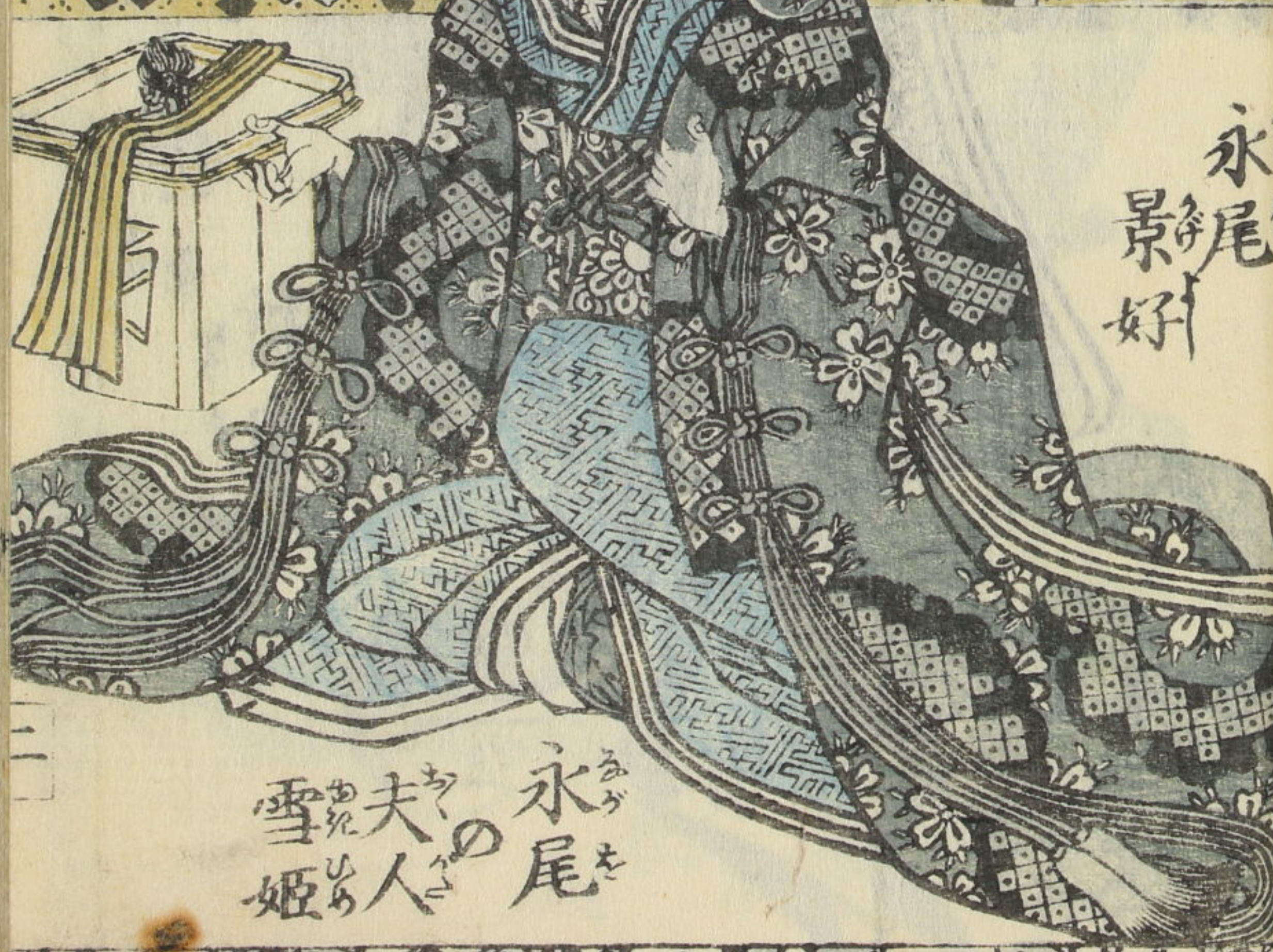


為永春水作梅蝶婁國貞由

唐の太宗言つる夏あり銅をりて鏡とて衣冠を正し
 古より鏡とて興廢と知るべし近き譬とていふ人
 少人の振見と我が振直せと言ふ諺小粗ある下然
 とも他の宜うぬぬりと世の人笑ふ多けれども
 それが為小自振を直さんとする者其期一紙ひ万
 卷の書ハ讀むとも文字の知りて行ひある無智
 文旨も劣らんるが果敢る九三丹子も童蒙心と
 例のま加々見小時代るせりぬを演ぶ

文久第四 甲子春 為永春水言

若狭屋...



雪夫人の永尾姫



鎌倉の永尾景好

江ノ嶋眺望之圖



稻村ヶ崎

大佛

極樂寺

七里ヶ濱

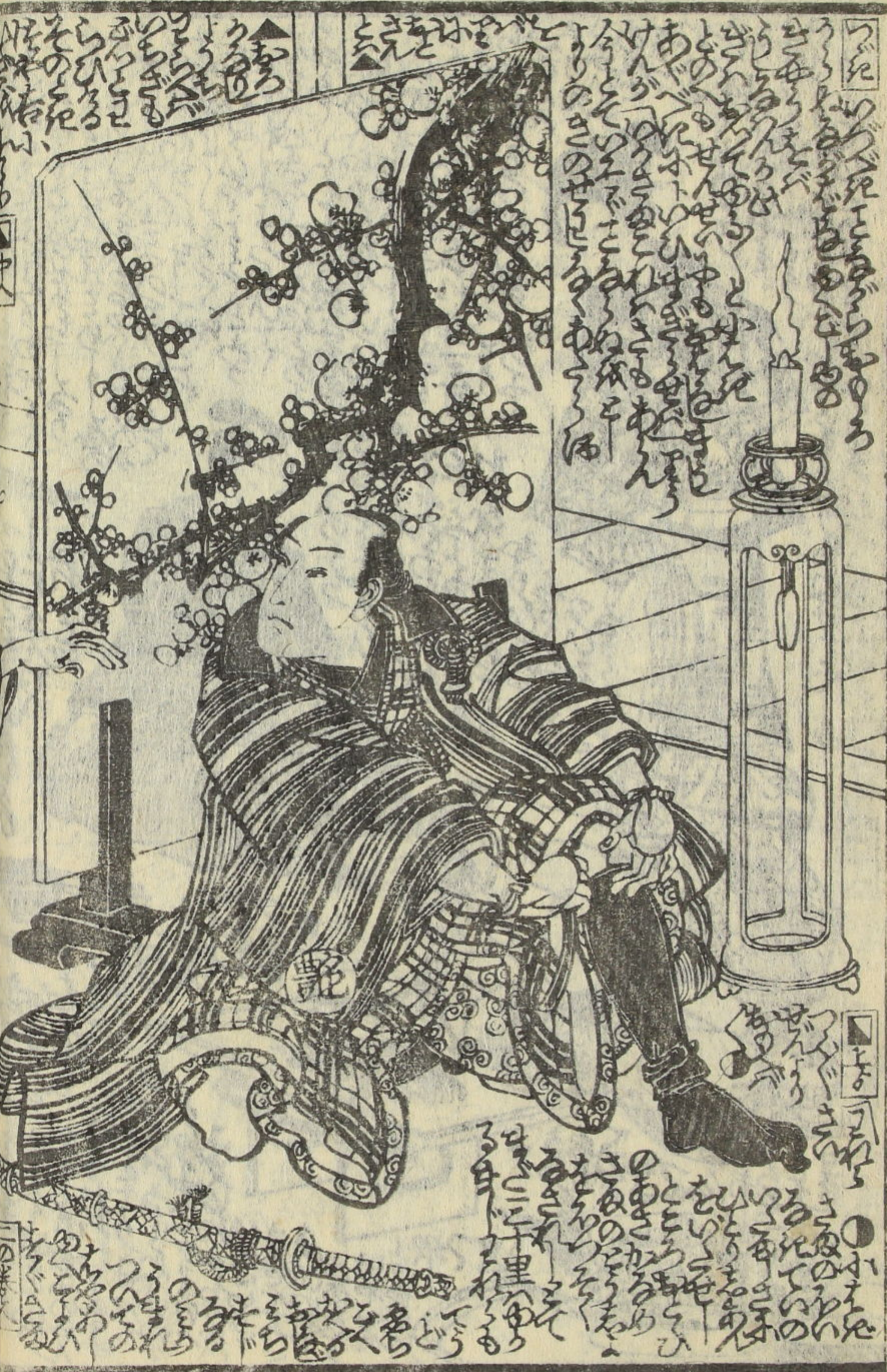
甲七三

辰春浪藤

侍女折鬼



寺三十三



甲十三二

五



甲子三十二

七

主面全剛

柏

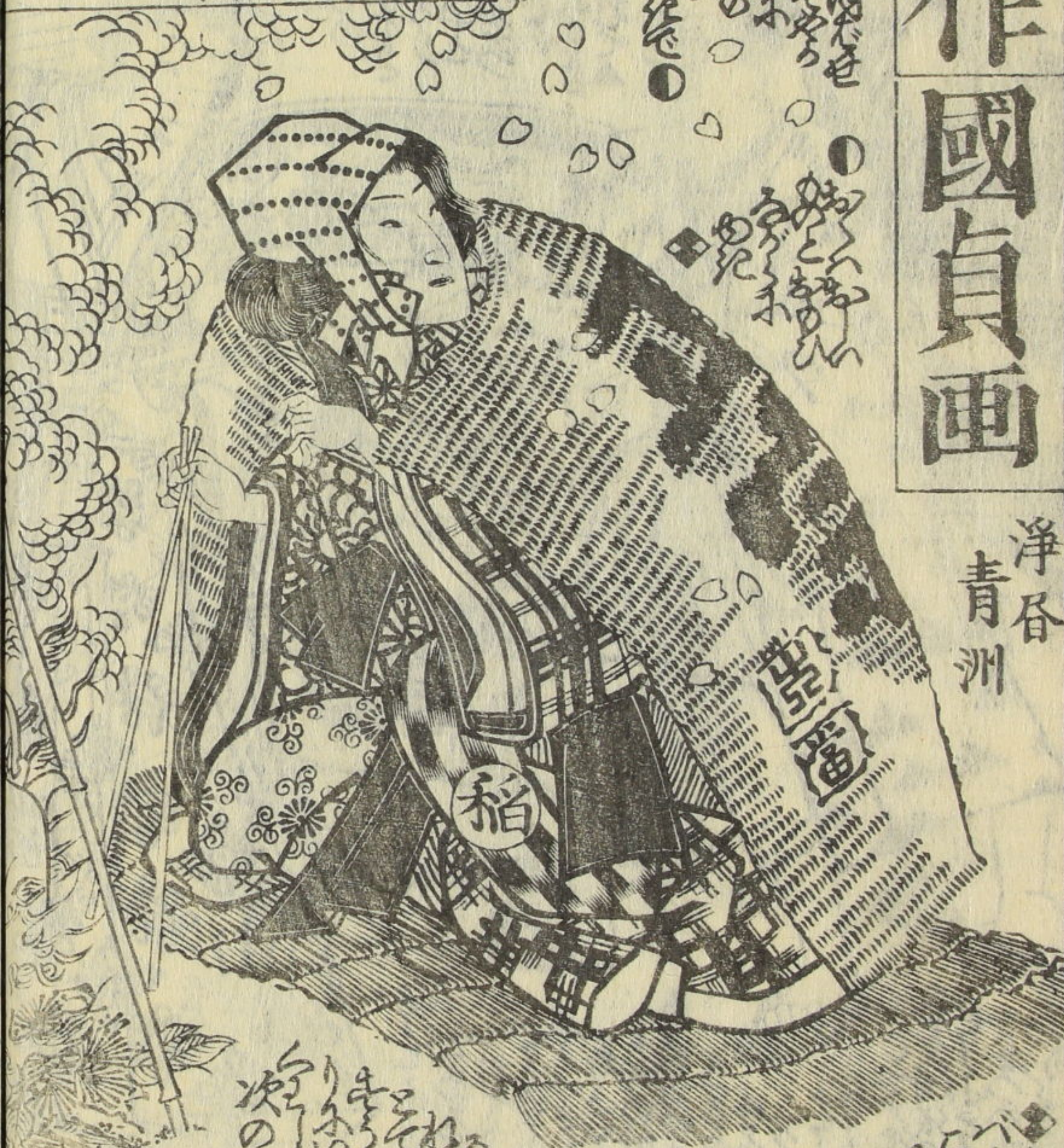
艶

詩七三十一

春水作國貞画

浄谷 青洲

朝牛肉丸 大飽二朱 中飽一朱 小飽百銅
 第一ひの成をさるひ
 せん其のとすうゆま
 るねばきまやのん人
 若小用ひさし
 小飽百銅
 対局 深奇氏製



此の画は...
 次...
 行...

總して作物話へ寂々後少艶場と見せ時代小
 世話と挟む成りて看官をいへ倦しめず然を
 六段目の身售ふくならふり泣せその跡茶屋
 場小移しをまつなりと目先と換へ作者の手柄
 自由小筆の動く成遅りと酒を飲まざると書房小
 屢責られく風雅でも酒落でも詮術あるこの
 山の段か稲妻が躰家とそんご所へ忠臣藏の文句と
 借く這編へ先づ幕ひを問支まらうを。

甲子新春

為永春水記

詩七

春水作國貞画
 浄谷 青洲
 二十 明前若松屋



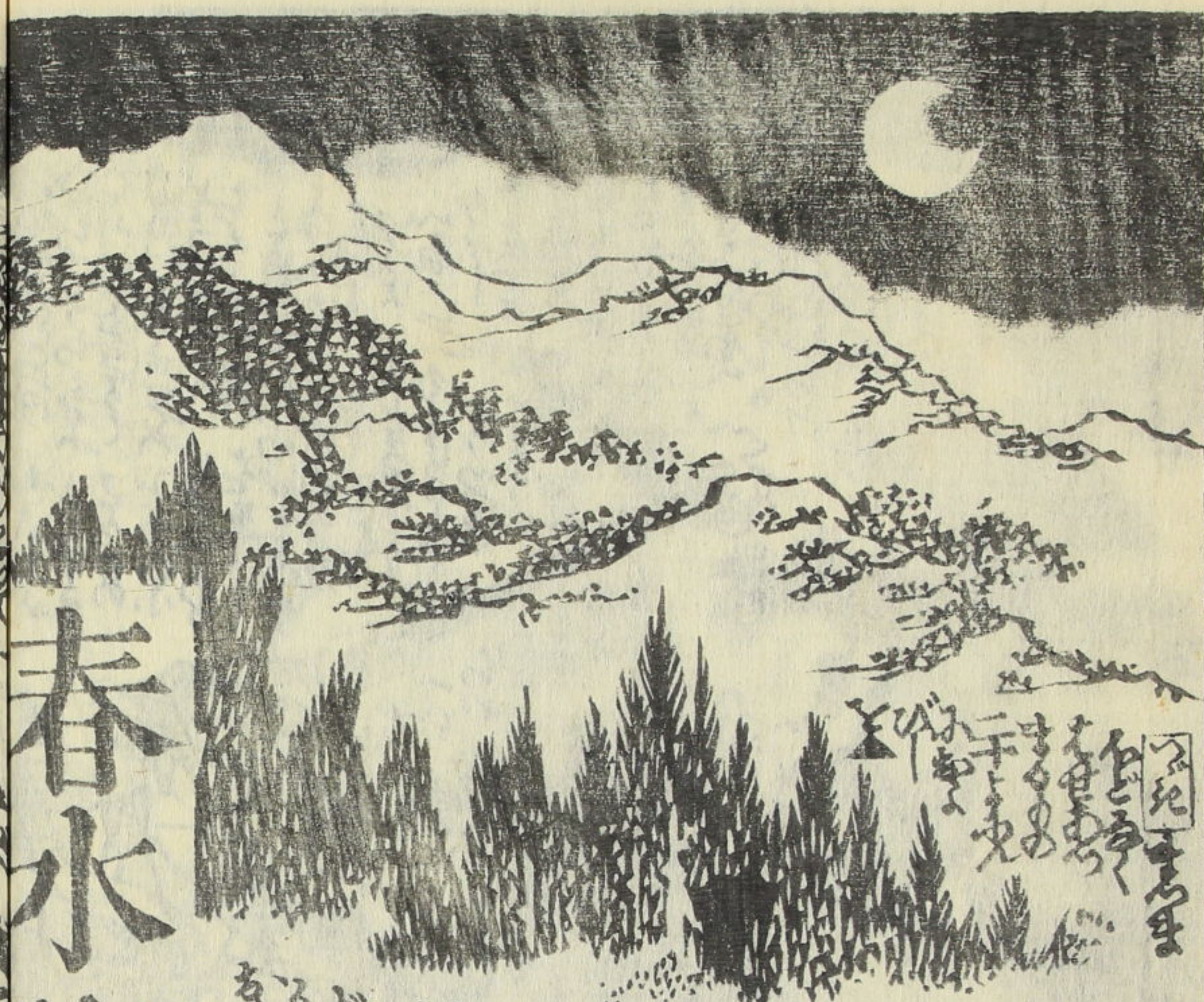
月三十三



守

春水作國貞画
 此の巻は、春水作國貞の
 名作である。この巻には、
 春水作國貞の名作である。

春水作國貞画
 此の巻は、春水作國貞の
 名作である。この巻には、
 春水作國貞の名作である。



時代三十三

春水作國貞画

春水作國貞画
 此の巻は、春水作國貞の
 名作である。この巻には、
 春水作國貞の名作である。

十 明前未だ三十三



甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

由

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲

甲



ついでにござりのあつたおの
 かたがたのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの

おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの

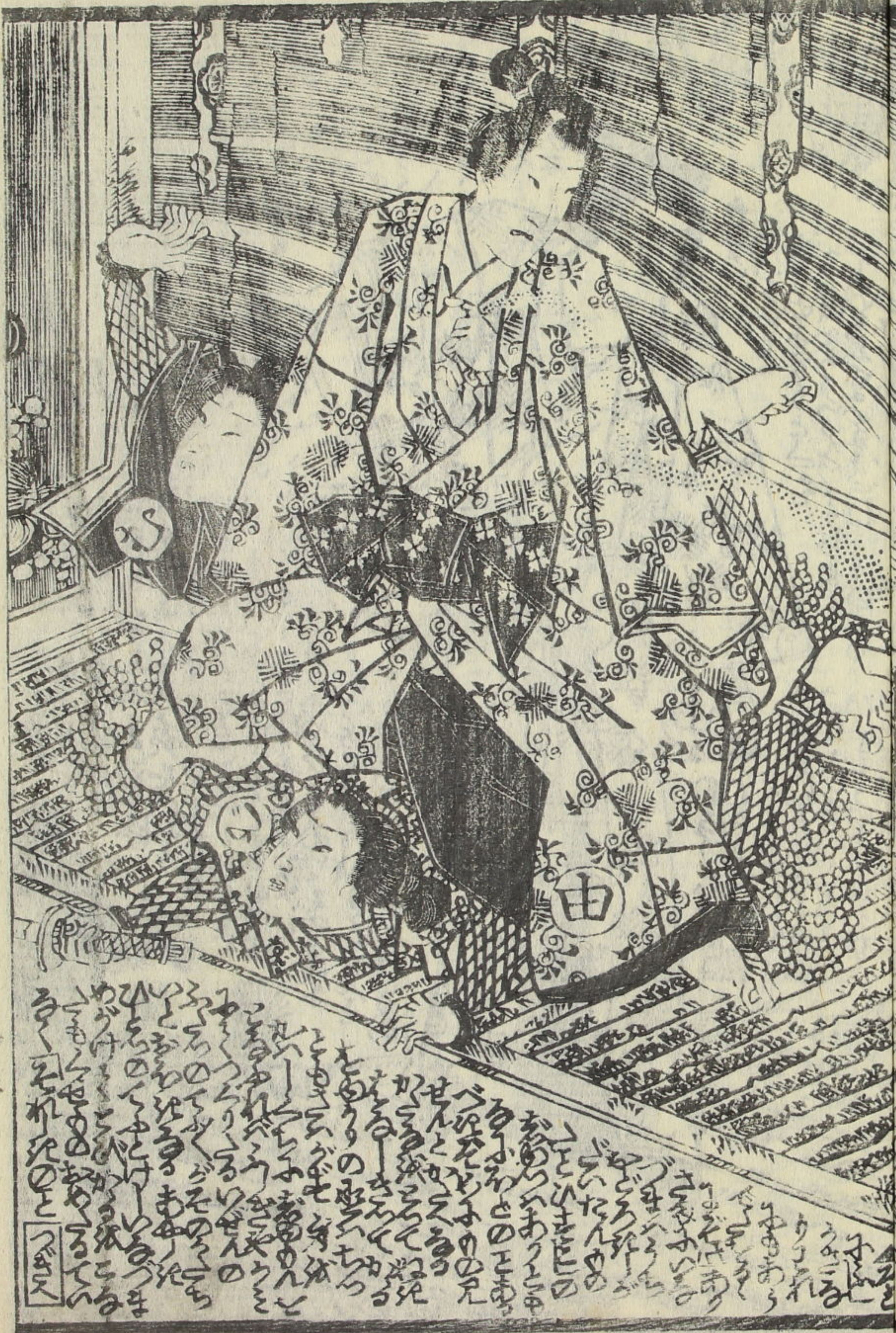
おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの

おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの
 おのあつたおのあつたおの



甲午三十三

十三



由
 魚を捕らぬは
 世に稀なり
 網を引くは
 世に多かり
 魚は世に多かり
 網は世に稀なり
 魚を捕らぬは
 世に稀なり
 網を引くは
 世に多かり
 魚は世に多かり
 網は世に稀なり



船
 魚を捕らぬは
 世に稀なり
 網を引くは
 世に多かり
 魚は世に多かり
 網は世に稀なり
 魚を捕らぬは
 世に稀なり
 網を引くは
 世に多かり
 魚は世に多かり
 網は世に稀なり



詩
三

甲
三
三



中

上



三十三

下



Vertical columns of handwritten Japanese text in the upper left quadrant, including a small boxed title.

Vertical columns of handwritten Japanese text in the upper right quadrant.

Vertical columns of handwritten Japanese text in the lower left quadrant, surrounding the kneeling man.

Vertical columns of handwritten Japanese text in the lower right quadrant, surrounding the kneeling woman.

Vertical text on the left margin of the page.

Vertical text on the right margin of the page.

文久四年甲子新年刻目録

北聖
美談

時代加賀實

三十編 為永春水作
三五編 歌川國貞画
出板

雜談雨夜貨庫

六編 為永春水作
七編 一陽齋豊國画
出板 門人 國久画

庭訓武藏鏡

應賀作 六編
國貞画



所携は好む年暮入お働きたるに
由來物の別々格好は遠く佳
下巻居上りゆりおろり流し目白
作付たりの根身形上り

地本草紙問屋若林堂

芝神明前
若林屋与市棹

春水作

國貞画



甲子三十三

二十時前若林屋与市棹

浄書 更洲 苑菊

北雪美談

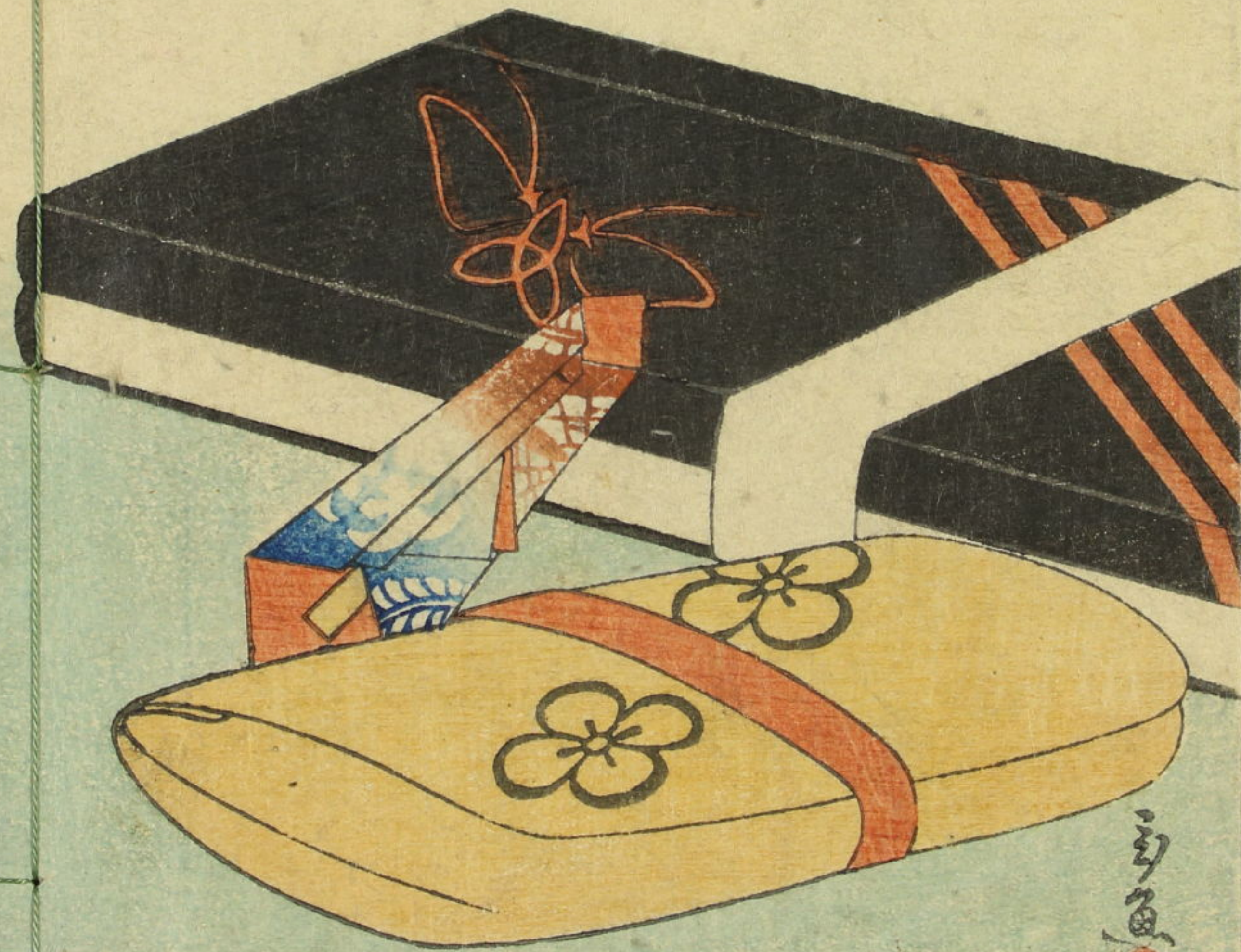
時代鏡

卅三編

為有古有化馬

歌川國貞畫

以名其書之種



三魚